

個人投資家のみなさまへ

会社説明会

2026年4月17日

株式会社アイ・エス・ビー

情報サービス事業・セキュリティシステム事業を展開する独立系SIer

社名

株式会社アイ・エス・ビー

設立

1970年(昭和45年)6月

上場取引所

東京証券取引所 プライム市場
(証券コード:9702)

事業内容

情報サービス事業(ソフトウェア開発)
セキュリティシステム事業(入退室管理)

本社

東京都港区港南2-16-3
品川グランドセントラルタワー



代表取締役社長 若尾 一史 | 2021年1月就任



2025年5月に本社オフィスを品川駅へ移転しました。

売上高(2025年)

370億円

最高業績9期連続更新

年平均売上成長率(CAGR)

9.1%

(過去5年)

営業利益(2025年)

23億円

(成長投資・一過性要因で減益)

株主還元(2025年度)

配当金

55円

配当性向

43.9%

【新たな株主還元方針】
2030年12月期までに
配当性向を50%以上に引き上げ 

創業

56年

1970年創業(昭和45年)

従業員数

2,757名

グループ連結(2025年12月末日時点)

グループ企業数

国内8社 海外1社

広域にわたる案件対応が可能な体制



ISBグループは社会の“なくてはならない”領域を、IT技術で支える企業です

自動車



医療



金融



官公庁・自治体

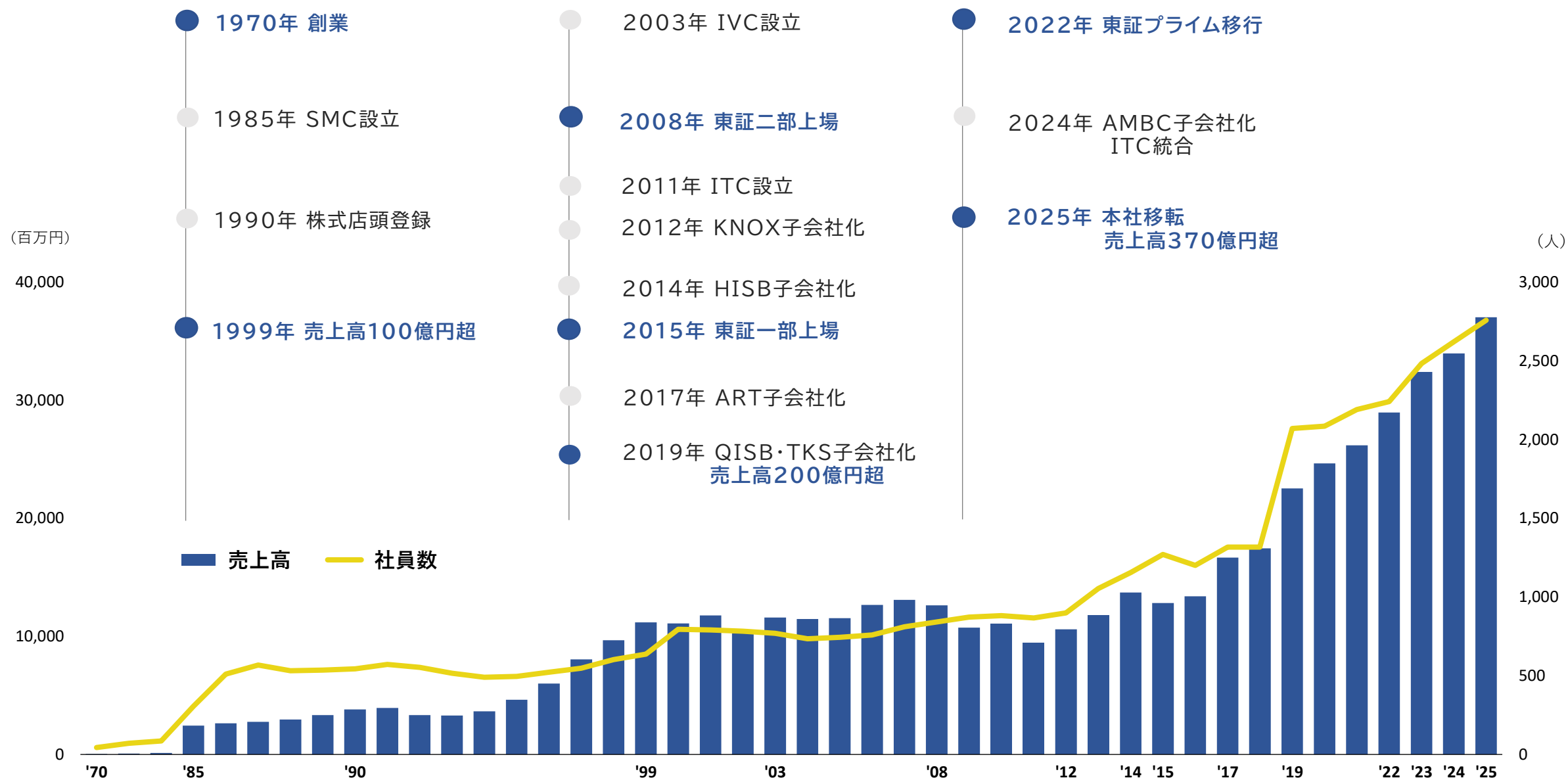


通信



セキュリティ





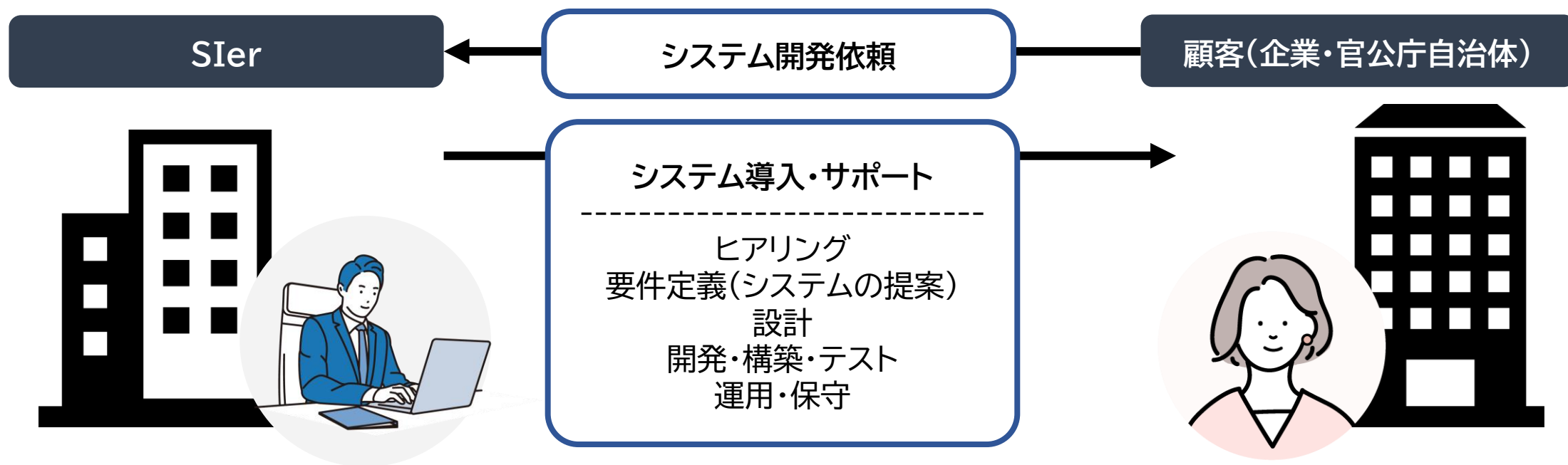
- 
- 1 業界動向とISBの紹介**
 - 2 ISBの強み**
 - 3 成長戦略（中長期経営計画2030）**
 - 4 株主還元方針**

- 
- 1 業界動向とISBの紹介**
 - 2 ISBの強み**
 - 3 成長戦略（中長期経営計画2030）**
 - 4 株主還元方針**

SIer とは？

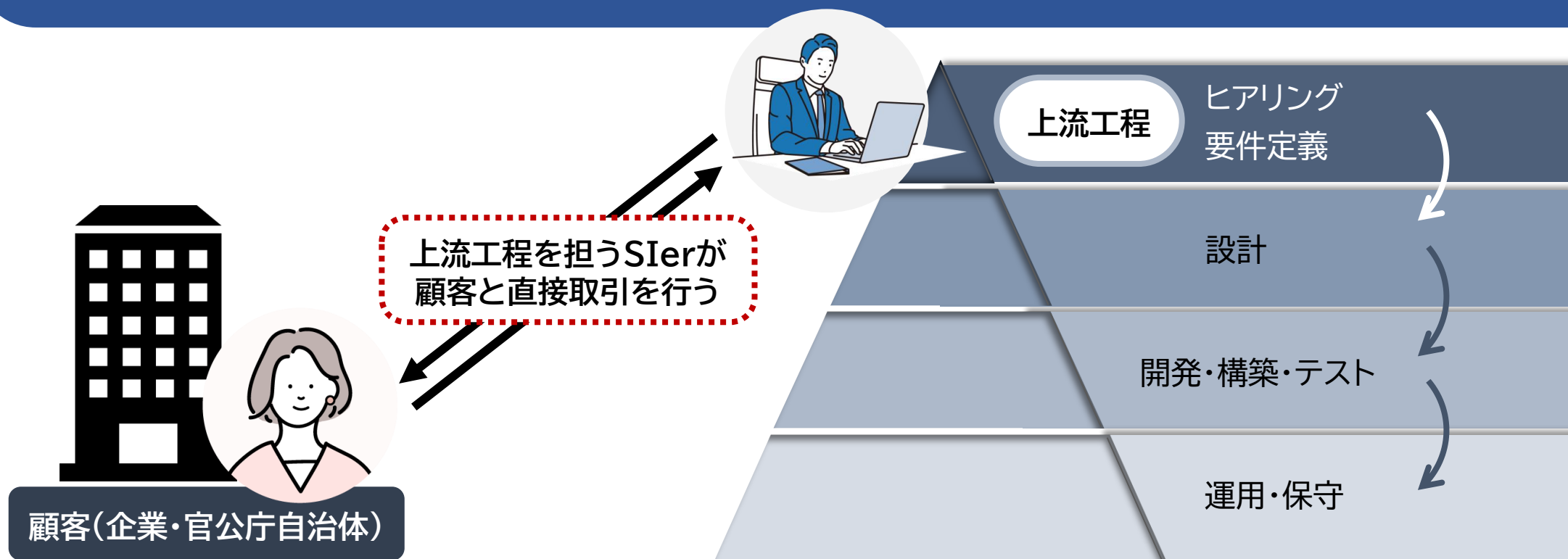
交通、自動車、金融、医療、行政など、社会を支えるさまざまな分野でシステムを「**企画し、開発し、運用する**」役割を担う業界。

企業や社会の進化が進むほど需要が生まれる構造であり、システム導入後も保守・運用が長期に続くため、**継続的な収益が生まれやすいビジネスモデル**です。



SIer 業界構造

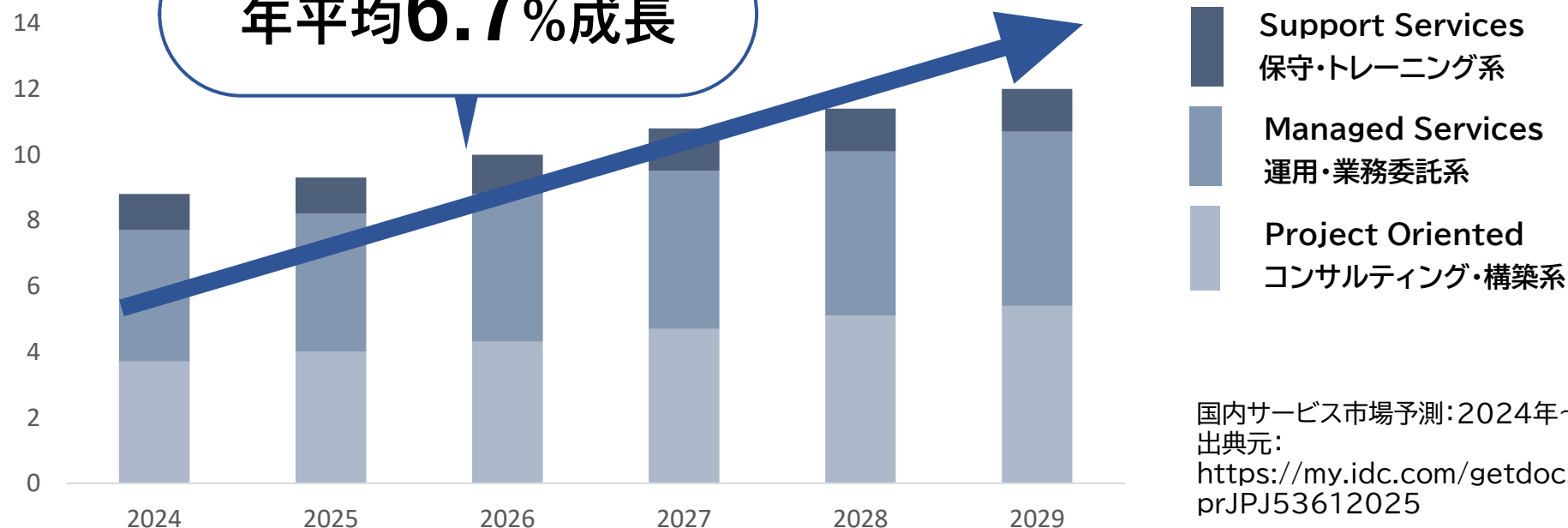
SIerの開発は、ヒアリング・提案から運用・保守まで複数の工程で構成され、企業によって全工程を担う場合（プライム）と、工程ごとに分業する場合があります。特にヒアリング・要件定義などの上流工程は専門性や難易度が高く、収益性も高い領域とされています。



成長
市場

国内ITサービス市場予測は、
年平均6.7%で推移し、2029年には12兆円市場へ
今後も社会のデジタル化を背景に、
持続的な成長が期待される、有望な市場といえる！

(単位：兆円)

年平均**6.7%**成長

国内サービス市場予測：2024年～2029年(出典：IDC Japan)
出典元：
<https://my.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prJPJ53612025>

1

IT人材不足

DX需要の拡大に対しIT人材の供給が追いつかず、
2030年には最大79万人不足と予測（経済産業省）

➡各社は人材確保・育成が急務

出所：経済産業省「IT人材需給に関する調査」（2019）

2

DX・AIによる
業務システム変革

企業・自治体で業務のデジタル化・AI活用が加速。システム開発だけでなく業務設計・導入支援の需要が拡大

➡業務設計からシステム導入までSIerの役割が拡大

3

基幹システムの
刷新・標準化

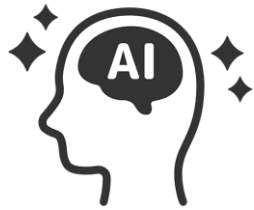
老朽化システムの更新や制度対応により、
企業・自治体で大規模なシステム刷新ニーズが継続

➡長期的なシステム開発需要が継続

AIの普及でSIerの仕事はなくなる？ → **NO！「AI時代、SIerは“消える”のではなく“進化する”**

変化(AIで何が変わるか)

エンジニアの役割はシフトする



「単純作業はAIへ」 → 人は上流へシフト
作業から「価値創造」へ

AIは加速装置、人は意思決定者

結論(だからSIerは必要)

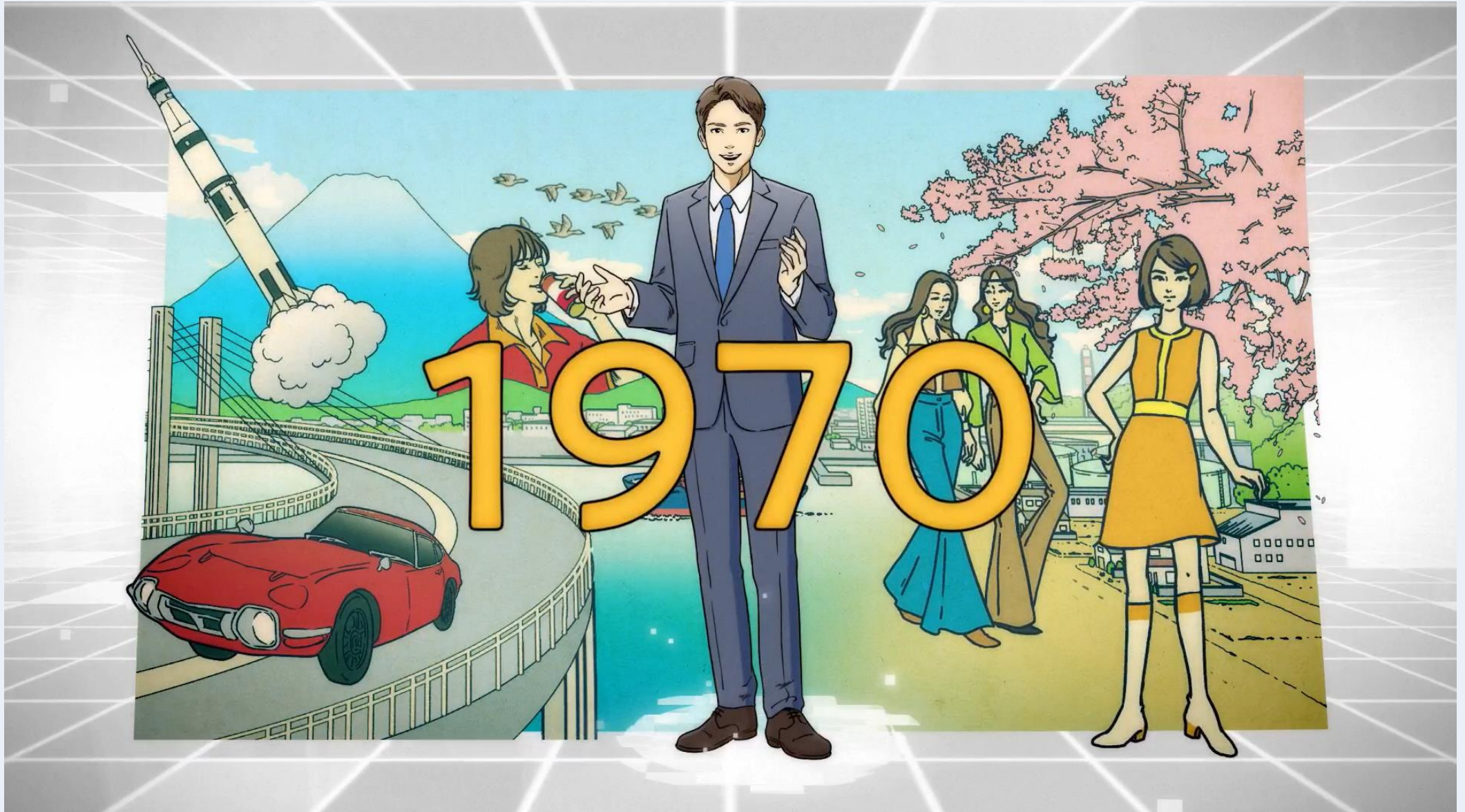
標準化できない領域こそ、SIerの価値

- 企業ごとに業務・要件は異なる
- 何を作るか／どう作るかはAIでは決められない
- SIerの仕事である基幹システム開発は、複雑で個別性が高く、提案には知見や専門性が重要

SaaSは標準化、SIerは個別最適

SaaS(Software as a Service)とは？

インターネット経由でソフトウェアを利用できるサービスの総称。
おもに、汎用的な業務(勤怠・メール・チャット)などで活用されている。



- 
- 1 業界動向とISBの紹介
 - 2 ISBの強み
 - 3 成長戦略（中長期経営計画2030）
 - 4 株主還元方針

1

長期取引に支えられた 安定顧客基盤

多岐にわたる事業領域、ワンストップサービスの提供により安定的な事業ポートフォリオを実現

2

社会の基盤を支える分野で 培った技術力

自動車・医療・金融など
高い信頼性が求められる分野での技術力が、
サステナブルな社会への貢献に寄与

3

人材投資による 強固なエンジニア基盤

継続的な採用と育成への投資により、
高い技術力を持つエンジニアを安定的に確保

4

リカーリング型 自社プロダクトの保有

システム開発に加え
継続課金型の自社製品の展開による
高い収益性の確保

ISB  GROUP

知恵とITの融合で、
持続的な企業価値を創出



事業領域

自動車・金融・医療の他、官公庁・自治体など、
社会を支える領域に深く入り込んだ事業構造

➡ 安定的な需要

特定分野に依存しない安定した顧客基盤

➡ 景気の影響を受けにくい



体制

拠点・グループ会社の連携により
全国規模の開発体制を構築

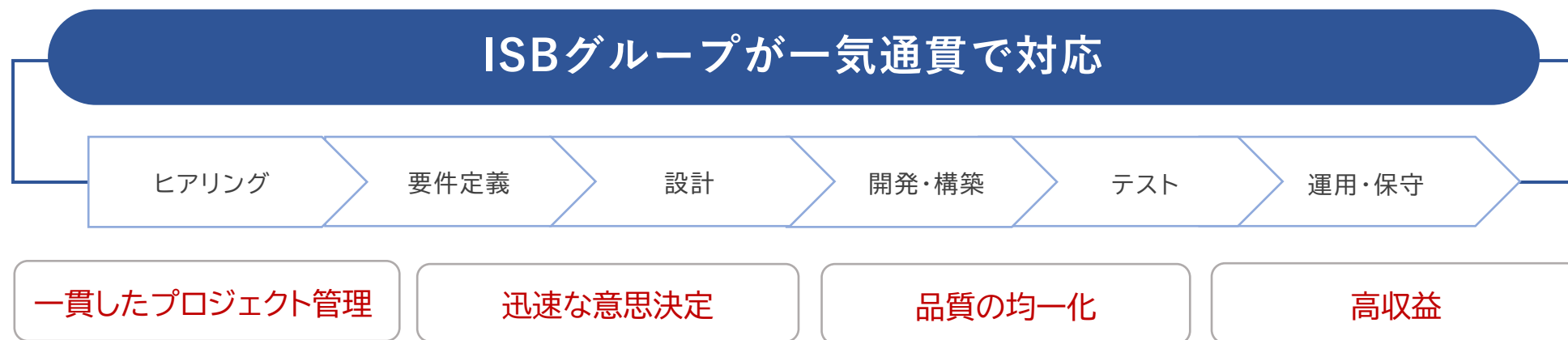
➡ 幅広い案件への対応力
技術連携



多岐にわたる事業領域 × グループ連携により 安定的な顧客基盤 を形成

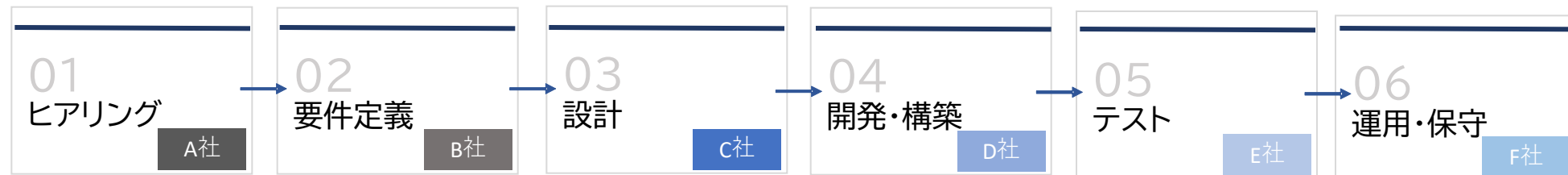
ISBグループはヒアリング～運用・保守まで、**一気通貫で対応可能**
品質や生産性が向上し、顧客との長期的な信頼関係を構築、「**安定的な顧客基盤**」を下支え

ワンストップ サービス



一般的な 開発工程

各社の調整・管理をする必要があり、情報の共有不足や、コスト増加に繋がりがやすい



【Wi-SUN（IoT向け国際無線規格）

インフラの状態を“つなぐ・見える化する”通信技術 家やビル・工場をつなぐ次世代IoT通信標準

幅広い活用シーン



家庭

電気の見える化/電力取引



ガス・水道

スマート検針・共同検針



商業施設

空調の自動管理



工場・店舗

稼働率モニタリング

高い信頼性を支える実績

世界初の認証取得

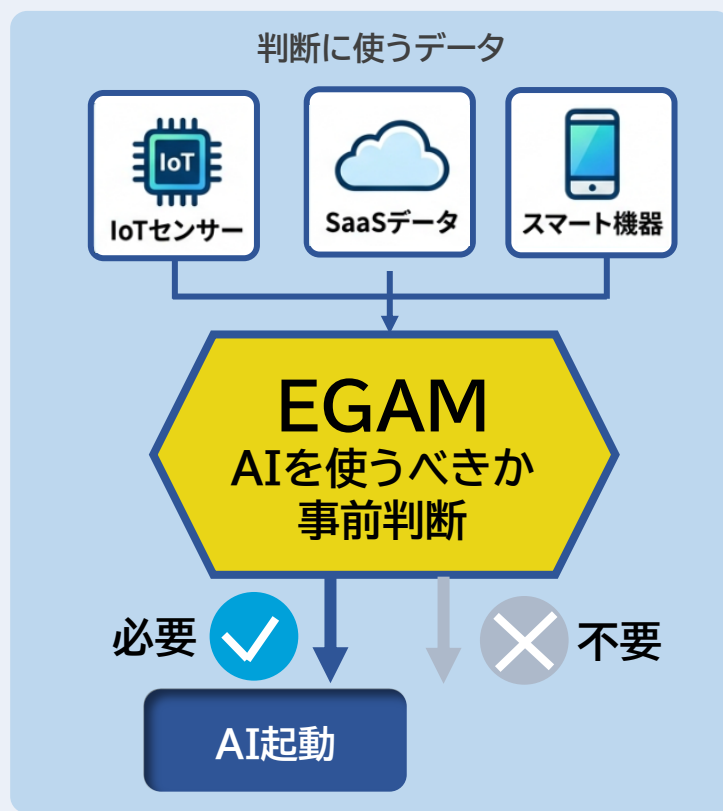
京都大学原田研究室と共同開発

国際的な相互接続性を実証

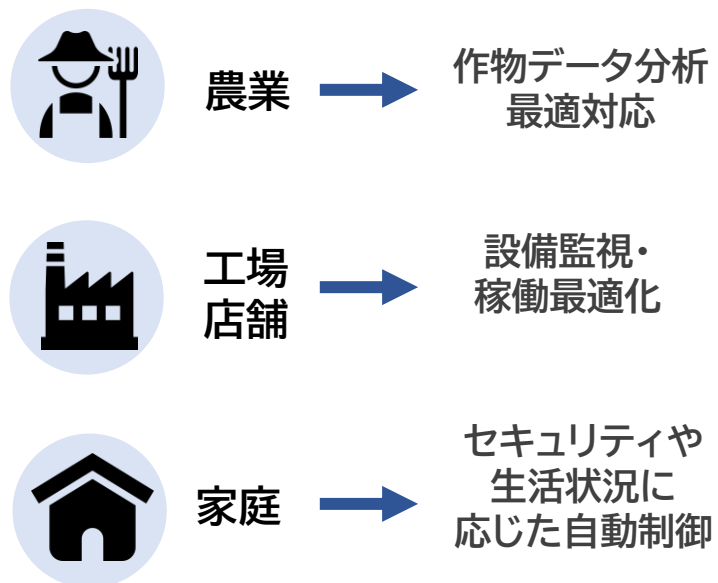
➡ 社会インフラ領域で安定した通信技術を提供し、**持続可能な社会の実現に貢献**

【EGAM(生成AI最適化技術)】

AIの稼働を最適化し、“ムダな利用を抑える” 制御技術



幅広い活用シーン



技術的な優位性

特許取得

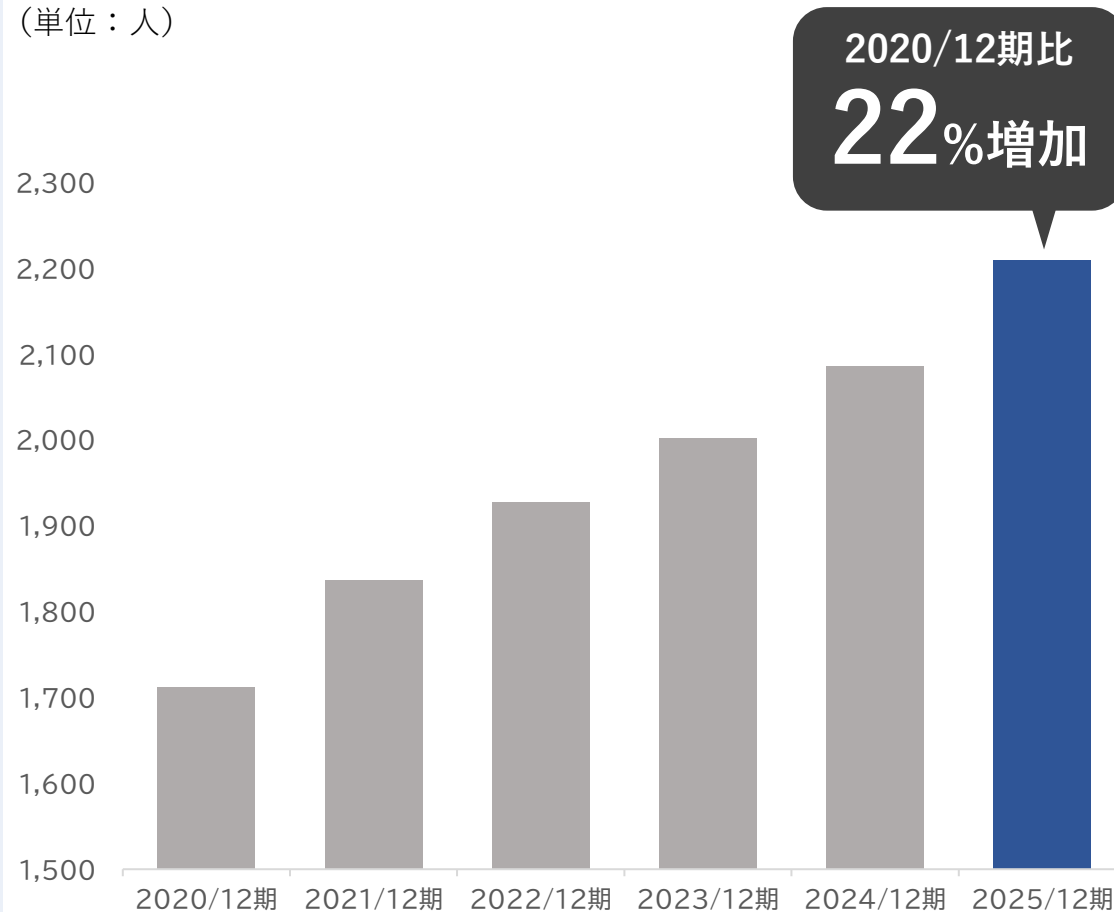
生成AIの効率化技術として開発

環境負荷低減に貢献

➡ AIの効率的な活用を通じ、**持続可能な社会の実現に貢献**

連結ITエンジニア数の推移

(単位：人)



注:有期雇用を含む(ビジネスパートナーは除く)

若手技術者育成の取り組み

- グループ合計120名ほどの新卒採用実績
(2026年入社)
- 成長環境の充実、働きやすい環境づくり
- ➡日本経済新聞社
「2025年春入社国立高専生の就職先ランキング」
4年連続でランクイン(184位中44位)
- ➡みんな就
「2026年卒 IT業界新卒就職人気企業ランキング」
連続ランクイン(198社中33位)

エンジニアの教育とスキル向上

自動車、医療、金融など幅広い分野の
システム開発に対応

外部パートナーとの連携強化

組込みシステムからクラウドまで
幅広い技術領域に対応できる体制へ



幅広い技術領域に“**継続的に対応できる**”体制



技術資格の取得

Qt Group

戦略的パートナー連携



パートナー認定の取得

【リカーリング製品の特長とは？】

継続的な収益が見込める

高い利益率を有する



安定的な収益基盤として
事業全体の収益性を下支え

リカーリングとは？

リカーリング(Recurring)とは「繰り返される」「循環する」を意味し、製品／サービス販売後も取引が続き、継続的に収益が期待できるビジネスモデル

ISBグループのリカーリング製品



■ モバイル端末管理



モバイル端末の一括管理ツール



■ 入退室管理



クラウド型の入退室管理サービス



■ 建設現場用
カードリーダー

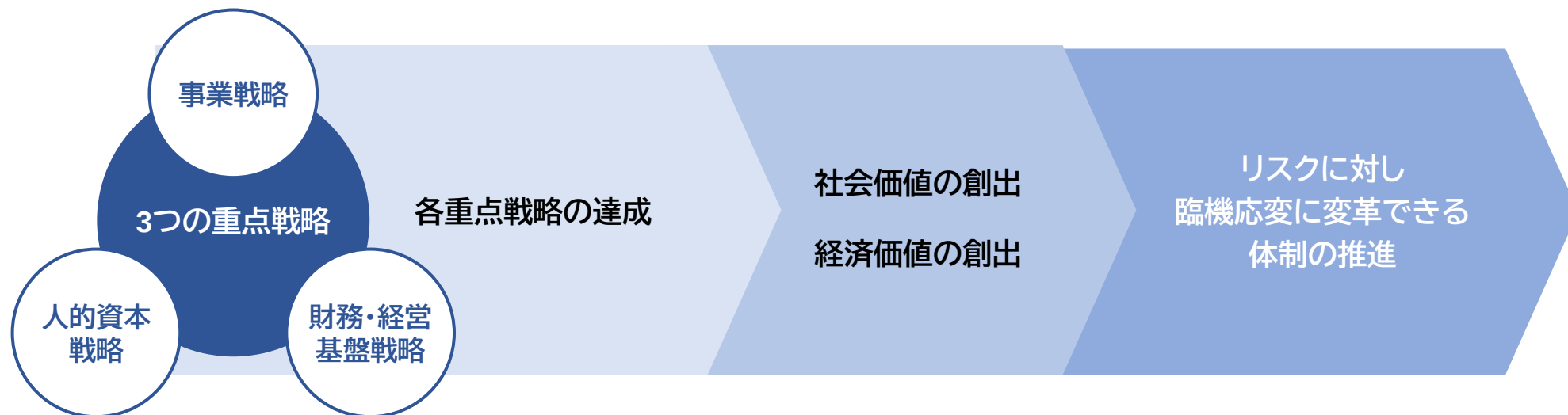
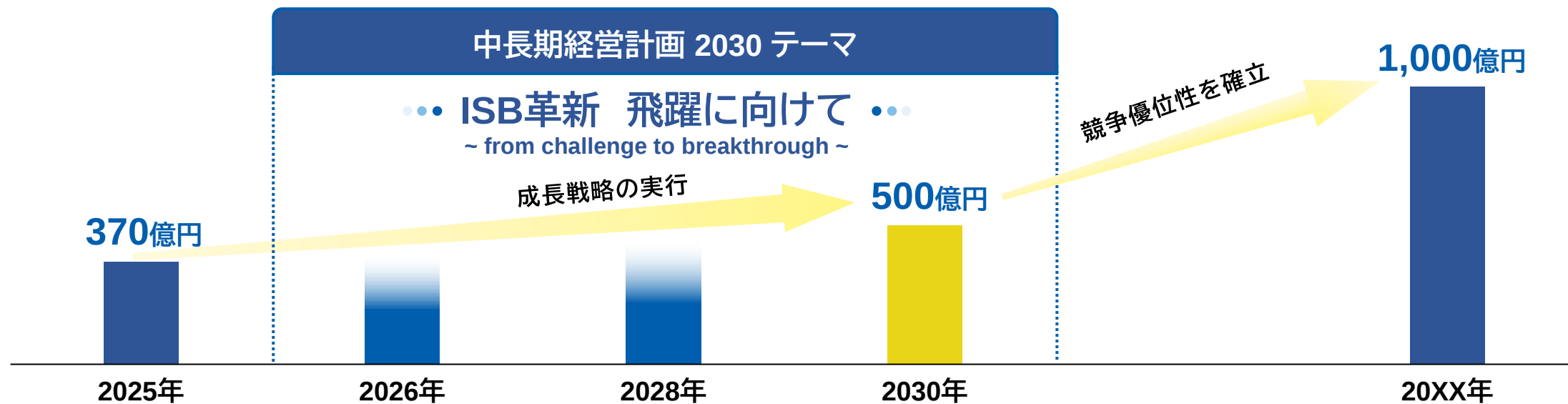


建設現場の就業履歴を管理する

ALLIGATE セキュリティ専門メーカーによるクラウド型の入退室管理システム

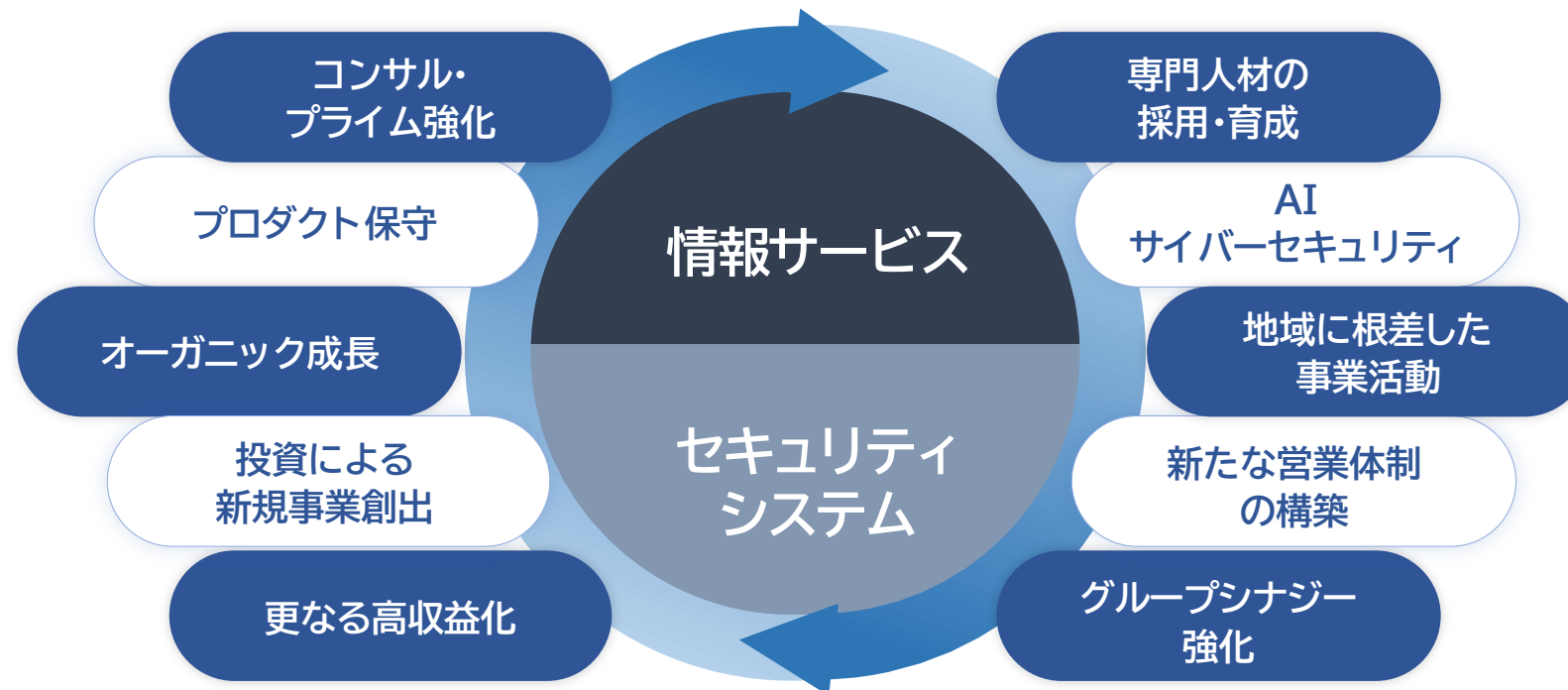


- 
- 1 業界動向とISBの紹介
 - 2 ISBの強み
 - 3 成長戦略（中長期経営計画2030）
 - 4 株主還元方針



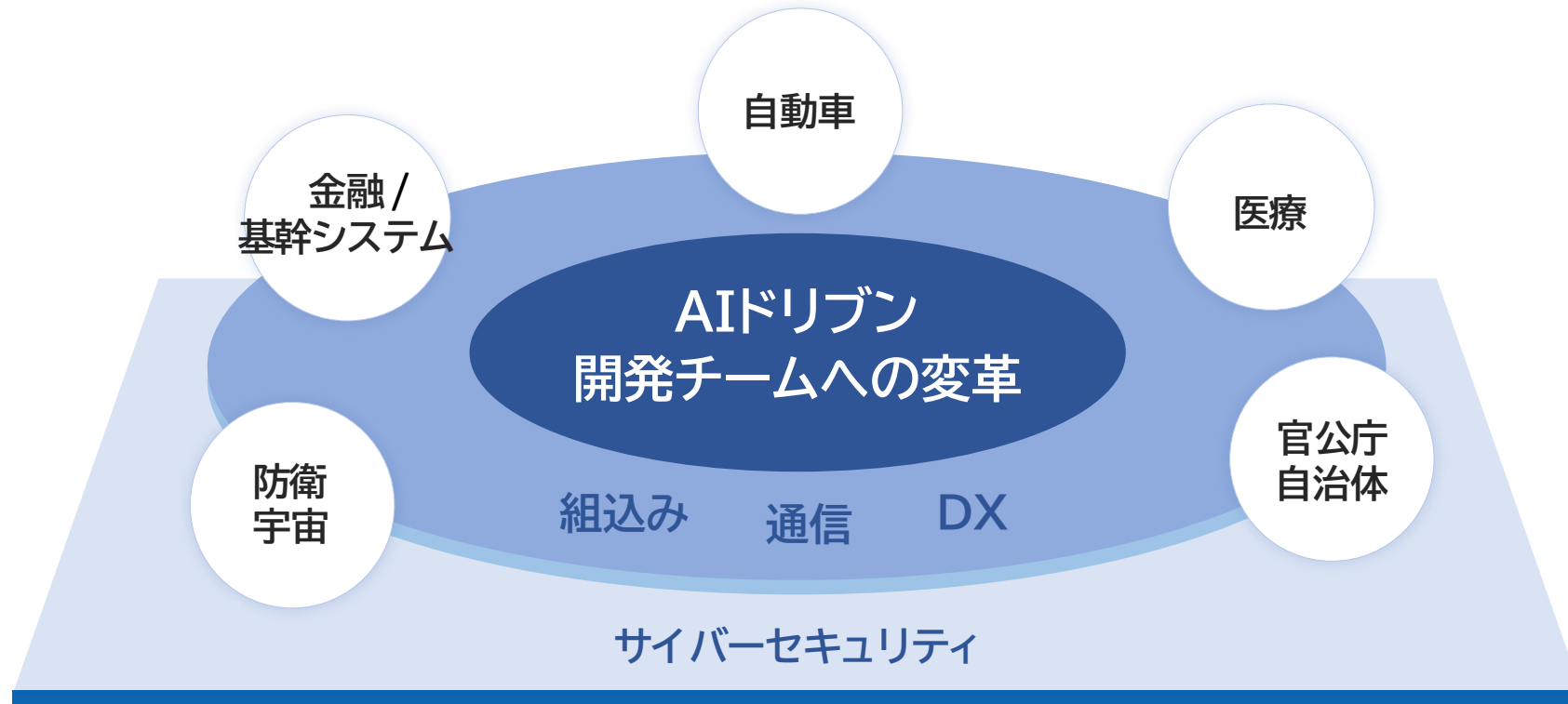
中長期経営計画2030 事業戦略の全体図

情報サービスとセキュリティシステムの2つのセグメント事業戦略において、
すべてのステークホルダーと共に社会・経済価値を創出



情報サービス事業

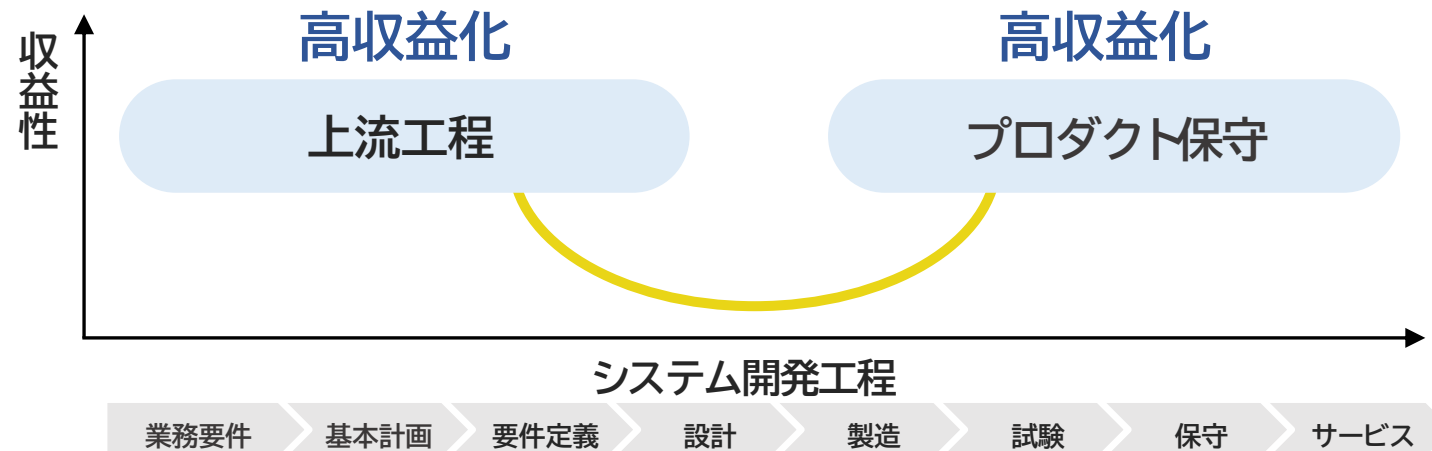
AIドリブン開発チームへ変革し、注力する事業領域での更なる成長へ



情報サービス事業

- 継続的な研究開発投資
- 専門人材の採用・育成を強化
- 上流工程(コンサル・プライム)/プロダクト保守/新領域の拡大

収益構造の転換(スマイルカーブ図)



セキュリティシステム事業

- リカーリング製品を含む既存事業(オーガニック)の更なる成長へ向けた向上と拡大



- ハードウェア販売とソフトウェア開発両面で提案可能な営業体制を構築
- ISBグループシナジー強化
- 投資による新規事業創出にて事業領域を拡大

中長期経営計画2030

既存事業
(オーガニック成長)



ISBグループシナジー強化

新規事業への取り組み

人的資本戦略

- **働きがいのある企業文化の醸成、エンゲージメント向上**

- ・ 多様な価値観を尊重し、心理的安全性を確保
- ・ コミュニケーションの活性化を促し一人ひとりが輝ける、やりがいの向上へ

- **採用強化**

- ・ グループ最適化による地域採用を強化
- ・ オフィス環境の改善による企業の魅力UPとブランディング戦略も含めて「働きたい会社へ」

- **教育・育成**

- ・ 学び続けられる環境を整備することで「学びたい」を醸成し付加価値の創出へ
- ・ リーダーシップ、マネジメント育成、キャリア形成支援を実施し、更なるイノベーションの促進へ

人的資本戦略の実行

付加価値向上を実現するための課題に投資

理念浸透	働きがいの満足度
専門人材の採用・育成	多様な人材の採用・活躍
多様な働き方	教育、キャリア形成

ありたい組織像・社員像の実現

生産性・収益性の向上

財務・経営基盤戦略

● 成長投資と株主還元の強化

成長投資と株主還元のバランスを取りながら企業価値の向上を目指す

● 透明性の高いガバナンス

コーポレートガバナンスの高度化、コンプライアンス徹底、情報開示の充実、社外役員の活用

● 環境課題への対応

GHG排出量の低減、気候危機対応など環境負荷への取り組み

■ 主な投資内容

成長投資	価値向上 約50億円	・処遇改善/採用/教育など ・オフィス環境整備/研究開発/ IT / ブランディングなど
	事業成長 50～100億円規模	プロダクトビジネス強化、及び上流工程や 特定領域の強み等を持つ企業の買収 (M&A)でシナジー効果を狙う
株主還元 約55億円 + α		・配当性向50%以上、DOE4%下限を 目標とした配当施策 ・機動的な自己株式取得

グループ売上高 2030年12月期

500億円以上

経営指標 2030年12月期

ROE
14.0%以上

グループ営業利益 2030年12月期

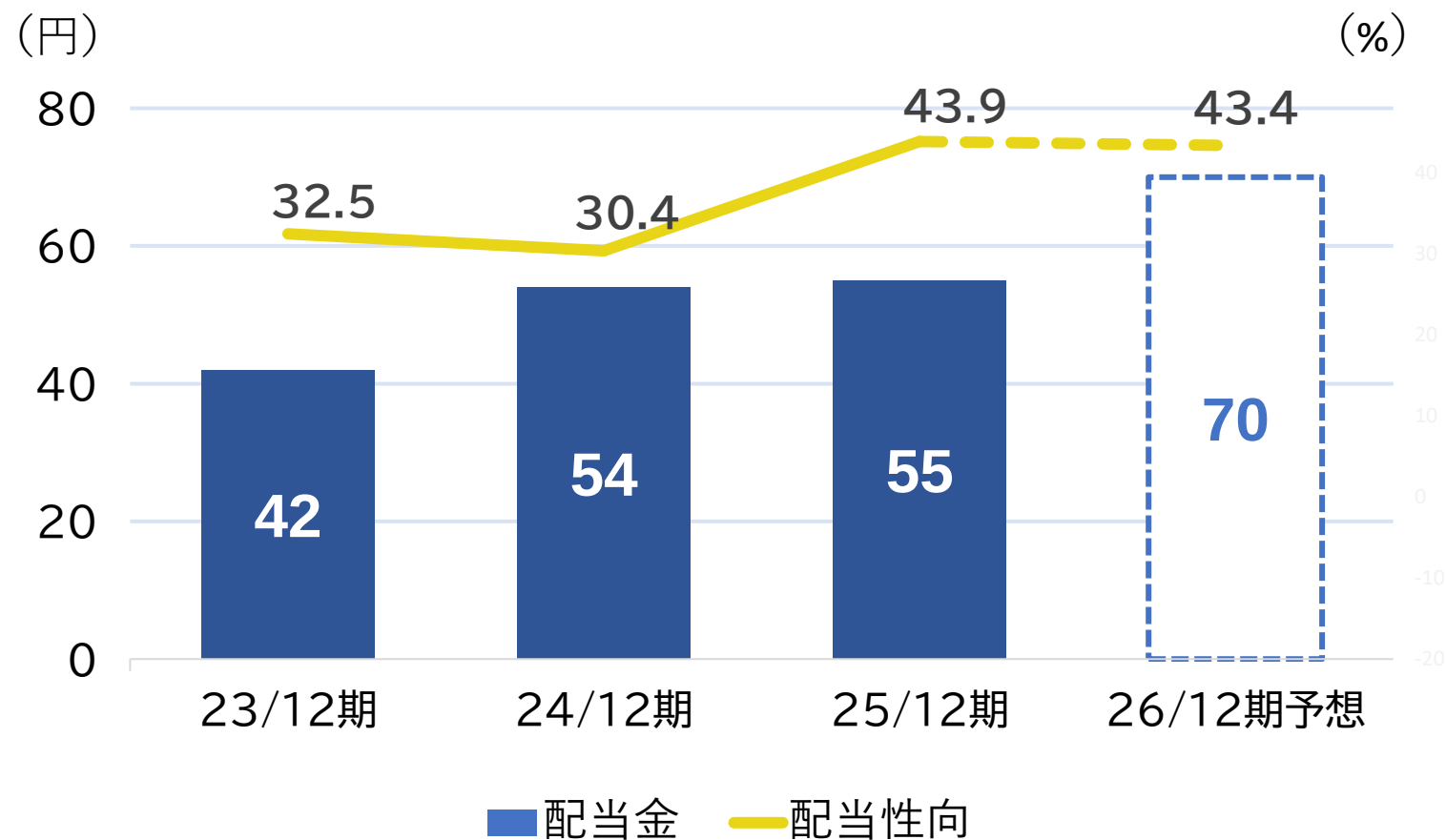
45億円以上

株主還元 2030年12月期

配当性向
50%以上

- 
- 1 業界動向とISBの紹介
 - 2 ISBの強み
 - 3 成長戦略（中長期経営計画2030）
 - 4 株主還元方針

配当予想・配当性向



	2024年	2025年	2026年 予想
配当金	54円	55円	70円
配当性向	30.4％	43.9％	43.4％

株主還元方針

これまで

配当性向
30%以上

これから

2030年12期までに

配当性向
50%以上
に引き上げ

安定的な配当の継続と、着実な増配を目指します

アイ・エス・ビーIRページでは
「中長期経営計画2030」
「資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について」

を公開しております。
ぜひご覧ください。



IR情報



→ 社長メッセージ



→ 個人投資家の皆様へ



→ IR資料室

- ISB IR関連情報
<https://www.isb.co.jp/investor-relations/>
- ISB 中長期経営計画2030
<https://www.isb.co.jp/investor-relations/individual/middleplan/>
- ISB 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について
<https://www.isb.co.jp/newsroom/data/pdf/release/20260213-2.pdf>

ISBグループ企業理念

夢を持って 夢に挑戦

Mission

私たちアイ・エス・ビーグループは
卓越した技術と魅力ある製品・サービスで
心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献します。

Vision

時代の変化に適応し、知恵とITの融合により、
未来を切り拓く新たな価値を創造します。

Value

誇り 誠実 挑戦



本資料に記載された業績の意見や将来予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではありません。

実際の業績は、記載されている将来予測とは、大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。

補足資料

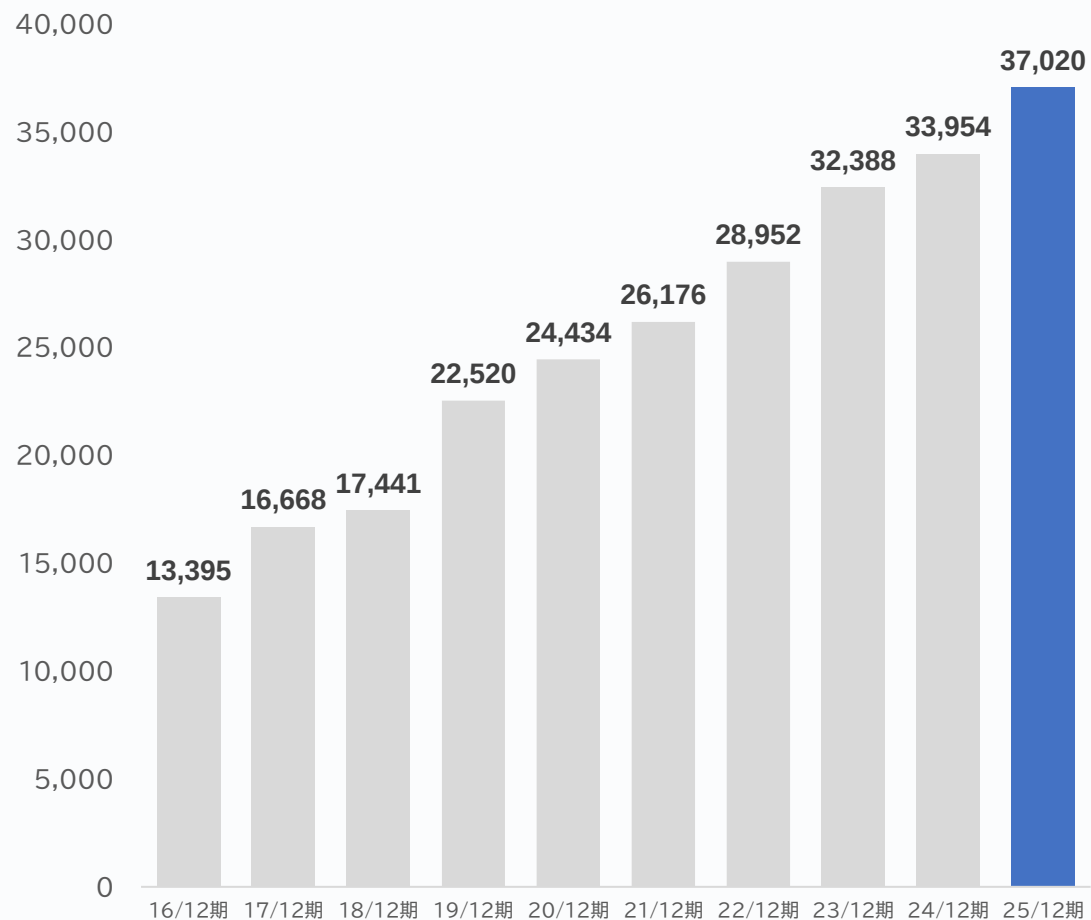
上方修正した通期計画を超過し、前年を上回る売上高を達成

(単位:百万円)

	2024年 12月期実績	2025年 12月期実績	増減	前期比	2025年 12月期計画	計画比
売上高	33,954	37,020	3,066	109%	36,900	100%
営業利益	2,800	2,314	▲486	83%	2,660	87%
営業利益率	8.2%	6.3%	▲1.9pt	-	7.2%	▲0.9pt
経常利益	2,892	2,384	▲508	82%	2,750	87%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,032	1,435	▲597	71%	1,690	85%
1株当たり当期純利益 (単位:円)	177.80	125.31	▲52.49	70%	147.73	85%

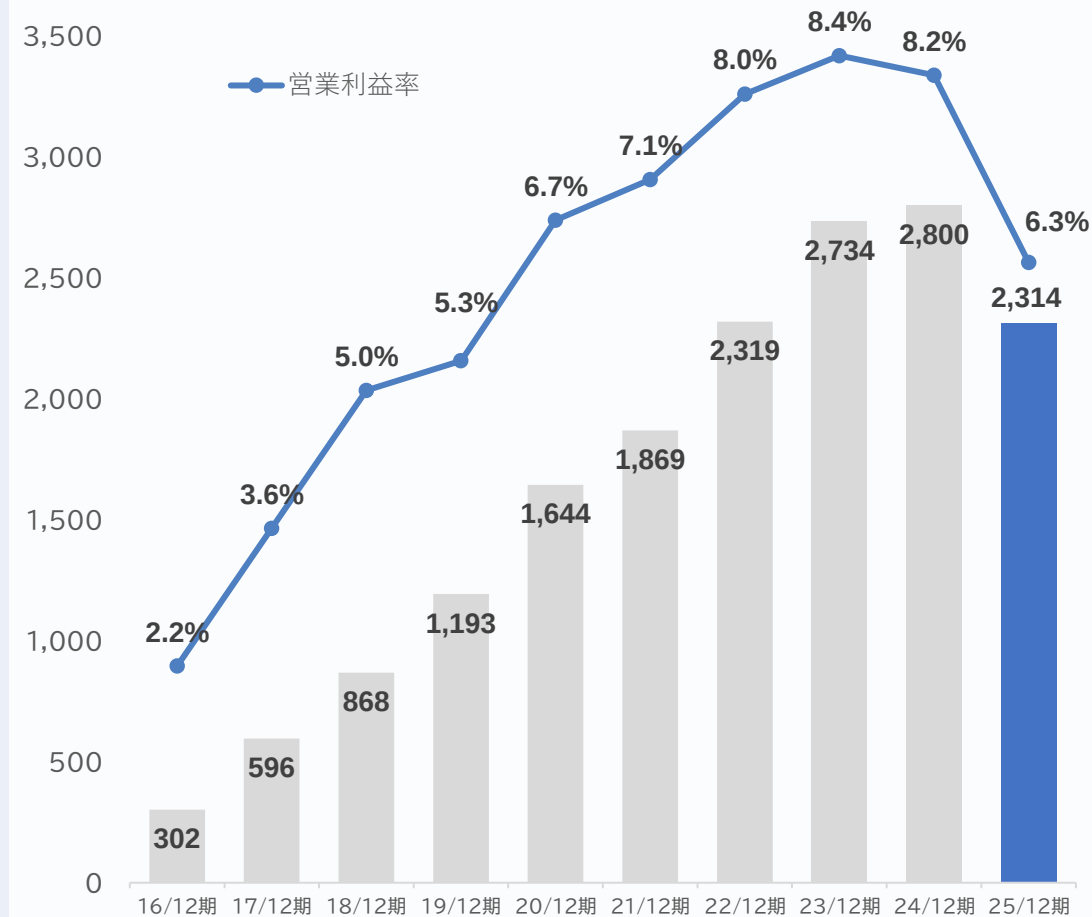
売上高は連続増収となり過去最高水準を更新する一方、
成長投資および一部不採算プロジェクトに係る一過性の影響により、利益水準は低下

売上高



営業利益

(単位:百万円)



設備投資等に伴う固定資産の増加。
利益の積み上げに伴い、引き続き健全な財務基盤を維持

(単位:百万円)

資産の部		
	2024年 12月期	2025年 12月期
流動資産	16,257	16,947
固定資産	3,684	4,663
有形固定資産	1,033	1,923
無形固定資産	866	769
投資その他の資産	1,784	1,969
資産合計	19,942	21,610

負債・純資産		
	2024年 12月期	2025年 12月期
流動負債	5,785	6,109
固定負債	651	978
負債合計	6,437	7,087
株主資本	13,176	14,030
その他の包括利益累計額	327	492
純資産合計	13,504	14,522
負債・純資産合計	19,942	21,610

持続的成長のための基盤づくり・未来の成長のための戦略的な投資として、2024年・2025年で総額24.6億円を実行

	2024年実績	2025年実績	26年計画	3か年累計計画 (24年-25年実績計)	取り組み・成果
採用・教育	0.7億円	2.6億円	2.0億円	5.3億円 (3.3億円)	・e-learningの導入、教育機会の提供 ・採用広報強化
処遇改善	4.5億円	5.2億円	4.2億円	13.9億円 (9.7億円)	・ベースアップ ・福利厚生の拡充等
オフィス環境	3.1億円	7.0億円	5.3億円	15.4億円 (10.1億円)	・オフィス移転・統合
IT	0.3億円	0.5億円	1.2億円	2.0億円 (0.8億円)	・セキュリティ強化、IT基盤・仕組みの導入 ・リスク低減に向けた社内システム整備
その他	0.4億円	0.3億円	0.5億円	1.2億円 (0.7億円)	・企業認知度向上に向けた広報施策の継続的な取り組み ・投資家との対話充実を目的としたIR活動の継続・内容拡充
計	9.0億円	15.6億円	13.2億円	37.8億円 (24.6億円)	

※成長投資金額は費用計上基準